

平成30年度自己評価

－今年度の重点目標について－

評価の基準：A－大変良くできた B－よくできた C－やや不十分 D－不十分

1 豊かな人間性を育成する

【評価B】

- ・「白楊三訓」を生活指導の基盤とし、人格の形成を図る。

【評価B】

「挨拶励行」・「時間厳守」・「整理整頓」（白楊三訓）の実践については、大多数の生徒は本校生としての自覚を持って学校生活を送っていると言える。その一方で、継続的な指導を要する生徒も一部見られる。今後も組織的な生徒指導を展開し、一人ひとりに対するきめ細やかな指導を継続する必要がある。

- ・地域連携活動を推進し、主体性や課題解決能力を身につけさせ、豊かな人間性を育む。

【評価A】

専門科目や課題研究をはじめとする各学科の特色ある教育活動の他、各種教育機関等の催事、校外のコンクール、発表会等を、地域交流活動や校外学習の機会として活用するために生徒へ情報提供するとともに活動への参加を促し、生徒の社会性の育成に効果を上げた。

2 基礎学力・専門性を高め、希望進路を実現させる

【評価B】

- ・わかる授業の実践・・・主体的・体験的な深い学びにつながる授業の実践、授業研究による授業力の向上

【評価B】

専門科目における従来からの体験型の授業に広がりが見られたが、普通教科においては主体的・体験的な活動をとおしての深い学びを模索する授業の組織的な展開が不十分であった。授業公開週間において、教員相互が「授業を見せ合う」取り組みは十分とは言えず、授業研究に課題を残した。

- ・資格取得率の向上・・・資格取得の積極的な奨励と指導の充実

【評価B】

全学科において資格取得の意義を生徒が理解し、意欲的な取り組みが見られ、上級の資格を取得したものもいた。しかし、一部の資格取得においては、課外授業等の事前指導をしたにもかかわらず、十分な成果が上がりなかつたものがある。

- ・学習習慣の確立・・・家庭学習、自主学習を習慣化するための課題の提示

【評価C】

確かな学力の定着を図るため、家庭学習の習慣化を意識しながら教科指導を行ってきたが期待通りの変容はなかつた。課題等を定期的に与えることと、家庭学習の必要性を生徒が自ら理解するような指導を根気よく継続することが大切である。

- ・キャリア教育の充実・・・低学年からの継続的・発展的なキャリア教育の実践

【評価B】

3年生に対してはきめ細やかな進路指導がなされ、進路希望を実現することができた。一方、生徒の秘めている可能性を十分に引き出すためには、1・2年次におけるキャリア教育を通じた自己理解の深化が必要であり、計画的な指導及び家庭との連携が必要である。

3 部活動を一層充実させる

【評価A】

- ・部活動の活性化・・・集団規律の実践、競技力の向上、活動環境の整備

8割を超える生徒が部活動に加入し積極的に取り組んでいる。今年度はいくつかの部が関東大会以上の大会に出場し、全国優勝などの顕著な結果を残すことができた。今後も部活動を通して競技力を高めることはもちろんのこと、人間性を錬磨し、主体的に活動しようとする意識を育てる指導を推進していくことが大切である。